

アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT



次年度に向けての作業

果樹林産センター 青島



剪定

病害虫の耕種的防除や農薬の散布効率の向上、新梢の発生を促すなど目的によって剪定方法が異なりますが、樹形を乱す枝（交差枝、内向枝、下垂枝など）や病害虫の発生源となる枝（枯れ枝、かしよう病、そうか病、カイガラムシなどの被害がある枝）は優先的に除去するようにしましょう。また、太い枝を切った場合はゆ合剤を使用して、切り口の保護を徹底しましょう。

春肥

気温の上昇とともに樹体は養分の吸収が活発になります。春肥は今後の新梢や花芽の発育、幼果の初期肥大に大きな影響を与えますので、必ず施用しましょう。雑草の生育も旺盛になってきます。せっかくの肥料成分が雑草に吸収されないように除草管理を徹底しましょう。茎葉処理剤ではなくゾーバーなどの土壌処理剤を散布すると、長期間雑草を抑制することができますのでおすすめです。

3月中旬

早生	中部柑橘共通配合	90 kg / 10 a
青島	中部柑橘共通配合	105 kg / 10 a

病害虫防除

害虫の活動も暖かくなるにつれて徐々に活発になります。かしよう病がみられる園地ではICボルドーなどの銅剤の散布をしましょう。新葉の感染を防ぐため、発芽前に薬剤を散布することが重要です。なお、マシン油と銅剤の近接散布は、薬効の低下や薬剤の発育を助長するため、14日程度あけてから散布しましょう。

かしよう病	ICボルドー66D	60倍
ミカンハダニ、カイガラムシ類	マシン油乳剤(97%)	60倍

獣害対策

近年獣害が増えています。せっかく植えた苗木が食害されると回復が難しく、未収益期間が伸びてしまいます。園地の周辺を電気柵やワイヤーメッシュで囲うなど対策を徹底しましょう。